

1.2 こうした問題に改善の兆しが見られないのは、何が原因と考えますか。

ID	自由記述内容	学会	年齢	性別
8	学会間・学問分野間の連携不足で声が伝わりにくい現状	日本哲学会	30	男
18	現状についての学問的認識の欠如	日本哲学会	32	男
21	非正規雇用人間が声を上げること自体が自身の正規雇用にも悪影響を与えてしまうかもしれないことを恐れて就職と問題意識とのはざままで動けなくなる構造	日本哲学会	33	男
33	現行制度の構造上の問題	日本哲学会	36	男
41	「取り組みの不十分さ」というよりも「取り組みの方向性の不適切さ」かな？	日本哲学会	38	男
44	社会からの需要が少ないこと.	日本哲学会	38	男
59	研究者ポストの器官における生活保障の仕組みがない. 不足している. チューター採用, 高校の非常勤など.	日本哲学会	43	男
76	大学院重点化によるゆがみとそれに対する反省のなさ.	日本哲学会	51	男
77	「旧七帝大」「旧六」などの(既に消滅したはずの)階層構造から未だに脱却できない文部行政の長期に渡る歪みに加えて, 特に独法化以降, 大学の内側から声を上げにくい組織的硬直化が進行した.	日本哲学会	52	女
83	ポスト数が絶対的に不足	日本哲学会	56	男
88	日本に於いては、哲学のような学問は一般の人々から理解されず、敬遠され、そのような虚の学問より、実利的な効用のある分野の学問・研究者が優遇され、その分野の研究者の拡充ばかりが図られている状況。哲学者に対してある種の政治家達は危険視し、一般の人々の批判的知性を喚起することになるのを警戒するのである。ソクラテスの受難は古代ギリシャだけのものではない。「話せば分かる」に対して「問題無用」というのが、日本に於ける文化政策なのである。文化国家として極めて未熟な状況が元凶だと思う。	日本哲学会	57	男
90	日本の雇用形態	日本哲学会	58	男
100	安易な大学院の設立と院生の受け入れ	日本哲学会	64	男